

「ハワイ天理文庫」開館

教内外の大きな注目集め

【ハワイ 中尾社友】ハワイ伝道庁(吉田進庁長)では三月十五日午後三時からホノルル市ヌアヌ街二三六の天理文化センターで、大学図書館関係者、各界代表者、報道関係者など約二百人を招いて「ハワイ天理文庫」の開館式を行いました。

出席者はまず文庫内に展示された貴重書や書庫などを見学したあと、カクテルパーティーが行われました。席上、吉田庁長

が「二代真柱様は書物に造詣が深く、一九五四年のハワイ伝道庁設立と同時に天理文化研究所を設置されました。その後、万

巻の書物を送って頂きましたがこのたび文化センター内に天理文庫を開設する運びとなりました。図書館として遜色のない基本図書そろえらるるとともに、ハワイにおける歴史書、太平洋地域関係の文献、また日本人移民に関する資料も収集して、ハワイの地域社会に寄与していきたいと思えます」と開館のあいさつを行いました。

来賓の日本領事館の萩生田副領事が開館を祝し「この文庫がハワイノ住民の知的関心にこたえ地域社会に寄与するという意義を有するのみならず、ハワイ、太平洋地域の書物を通じて、それぞれ背後にある文化について理解を深める機会を提供されるという事は、ハワイと日本という東西の接点で多大の文化的意義を持つものと思えます」と話しました。

このほか、ビショップ博物館の篠遠喜彦・人類学部長は「この文庫内の「太平洋文庫」は私の恩師、八幡東大教授が収集されたもので、ここに収められたことを知り、喜びにたえません」移民保存資料館に勤務する

篠遠夫人は「移民資料の収集も行われると聞き、共にハワイの文化的事業の上に努力させてもらいたい」ハワイ大学のジェームス・荒木教授は「善本叢書に注目しています。奈良絵本の「ささやき竹」はぜひとも写真に撮らせて頂きたいと思っています」と、それぞれ文庫に対する期待を話していました。

文化センター内の住宅を改造して設けられた同文庫は現在、二万冊の蔵書があり、天理図書館の八木よし子司書が一年がかりで分類整理に当たり、開館後は海外布教伝道部派遣の樋口やう子さんが司書として勤務、一般市民にも広く開放して地域社会に大きく貢献するものと思われま



文庫の開館式で展示された貴重書に見入る招待客たち
(3月15日・天理文化センターで—中尾社友提供)

充実するハワイ天理文庫

ハワイ伝道庁は、ホノルル市
又ア又通りの天理文化センター
内に、昨年三月十五日、ハワイ
天理文庫を開設した。同時に文
庫の約二万冊の蔵書を広く教内
外で活用してもらおうと、七月
五日に「ハワイ読書クラブ」が
発足した。会員は日系連合協会
役員の磯近武夫、前山北海の両
氏、ジャーナリストの田坂養民
氏、鈴木端枝氏、その他主婦、
日本語学校教師、学生らで、現
在五十人を数える。

ごされる皆様方のお役に立ちた
いと思い、私の著書、訳書を取
り寄せました。ハワイ天理文庫
の上にてできるだけのことをさせ
て頂きます」とあいさつ。氏は
著書の「ライフ・スタイルのつ
くり方」「情報整理学」など十
八冊を寄贈し、一同を感激させ
た。

吉田進氏は、



「この文庫が、開館して間もな
く読書クラブが生まれ、皆様の
知的関心におこたえできますこ
とは、この上ない喜びです。今
後も文庫、読書クラブを一層充
実させ、ハワイの地域文化向上
に寄与したいと念願しております」
と述べた。

ハワイ天理文庫には教内出版
物、辞書、全集をはじめ文学、
歴史、学術書などが幅広く集め
られており特に南太平洋関係の
コレクションが充実している。
これは、二代真柱が熱心に集め
られた本で、第二次大戦前に出
版され、すでに絶版になったも
のがほとんどである。

クラブでは毎月第一土曜の夜
に例会を開き、著名な講師を招
き「大統領選挙」「記者生活の
思い出」などの講演会、読後感
の発表会、座談会などを行って
きた。

× × ×

十二月五日夜は、文化センタ
ーの庭園で会員五十人が集い、
懇親パーティーが催された。

ウクレレ演奏家として名高い
H・太田さんが数々の名曲を披
露して、パーティーは和やかな
雰囲気で行。

ホノルル・マラソン取材のた
め訪れたTBS(東京放送)チ
ーフ・プロデューサーの川勝久
氏も出席し、「余暇を読書で過



読書クラブの懇親パーティーで
飲談する会員たち(55年12月5
日・ハワイ天理文庫で)

現在、海外布教伝道部から樋
口やう子さんが司書として派遣
され、二万冊の図書の種類・管
理にあたっている。

「司書の仕事は大変ですが、伝
道庁や読書クラブの人たちも手
伝って下さり、楽しくやってい
ます」
と、樋口さんは笑顔で話してい
た。

ハワイ天理文庫は一般にも広
く開放され、利用者、貸出図書
の数も増え、地域社会に大きく
貢献している。

(ハワイ・中尾社友)

日本人移民資料展開く

地域の文化活動に貢献

—ハワイ天理文庫—

【ハワイ・中尾社友発】 ホノルル市アヌア通りの天理文化センター内にあるハワイ文庫で、このほど「ハワイ島日本人移民資料展」が開かれた。これは、同文庫に事務局を置くハワイ読書クラブ（会員約八十人）が企画したもの。ハワイ島のヒロ市内で移民資料の収集活動を続けている大久保清・ハワイ島日本人移民資料保存館長を招き、同氏が保存する資料のうち約五十点を一般公開した。

大久保さんは明治の末ごろハワイへ渡ったが、先輩移民者の足跡を後世に伝え残そうと、約五十年前から資料収集をはじめた。初めての館外展示となったこの日は、明治二十二年の憲法発布の時の絵入り号外、山口県知事の名前でハワイ移住者に対して出された激励と心得の文書、日本の

女相撲のハワイ興行記録や写真など、門外不出の珍しい資料が一堂に展示され、遠く過ぎ去った明治の移民史を眼前によみがえらせた。

このほか観光化される以前のハワイの姿を伝える写真集や移住者の手によって発行された雑誌や新聞なども多数陳列され、見学に訪れた日系人の興味をそ

そった。

大久保さんは、「天理文庫を会場に、初めての館外展示が大成功に終わり、うれしく思っています。また、ヒロ市にある保存館でも、市内の天理教の信者さんが毎月、庭の芝刈りや周辺の清掃をして下さり、大変感謝しています」と話していた。

会場となったハワイ天理文庫は、昭和五十五年三月開設。同時にハワイ読書クラブも結成され、広く一般にも開放されている。蔵書数は約二万余。教内出版物、辞書、全集をはじめ文学、歴史、学術書などが幅広く集められている。特に二代真柱が集められた南太平洋関係の約三百点に及ぶコレクションは、すでに第二次大戦前に絶版になったものがほとんどで貴重な資料と

展示された資料に見入るヒロ市民

して大いに役立てられている。また、今回の展示会を機会に文庫を一部拡張、書架も増設され、地域社会の文化活動に大きく貢献している。



ハワイ天理文庫に自著110冊を寄贈

直木賞作家 陳舜臣氏 東西文化交流の充実を期待し



贈呈式には、陳舜臣夫妻が出席（前列左）。中尾ハワイ伝道庁天理文庫担当主事（右から3人目）に、著書と目録が手渡された（1月30日、ハワイ天理文庫で）

一九九五年のNHK大河ドラマ『琉球の風』の原作者としても知られる作家の陳舜臣氏が、ハワイ伝道庁（吉川善治庁長、附属天理文化センター内の「ハワイ天理文庫」に、自著百十冊を寄贈。一月三十日、自ら出席して贈呈式を行うとともに、「私とハワイ」と題して記念講演を行った。これは「大好きなハワイに自著を寄贈したい」との陳氏の希望を受けて、ハワイの日本人会関係者が検討した結果、蔵書三万冊を擁し、一般にも広く公開・利用されている天理文庫が最適との判断に至ったもの。贈呈式の模様は、地元のマスコミ各紙にも大きく報じられ話題を呼んだ。

（資料・写真：ハワイ・中尾社友）

陳舜臣「ちん・しゅんしん」
小説家、日本芸術院会員。一九二四（大正13）年神戸市生まれ。大阪外国語学校印度語科卒。母校の西南アジア語研究助手を経て、戦後、家業の貿易業に従事。五七年から小説を書き始め、六一年『枯草の根』で第七回江戸川乱歩賞を受賞。六九年『青玉獅子香炉』で第六十回直木賞を受賞。推理小説のほか、三部作『阿片戦争』などの歴史文学や歴史叙述を数多く発表。九〇年、日本に帰化。九五年に『琉球の風』を手掛けたほか、『敦煌の旅』『中国の歴史（全15巻）』『太平天国』『諸葛孔明』など著書多数。九一年朝日賞、毎日出版文化賞、九五年日本芸術院賞、井上靖文化賞などを受賞している。

陳舜臣文庫の寄贈先に、庫読書室で行われた贈呈式については当初、ハワイ大学図書館などが検討されたが、有料であったり、一般の人が利用しづらいなどの理由で除外。立地条件や蔵書数、一般の利用状況などから天理文庫が選ばれた。

一月三十日午後、天理文庫が、天理文庫の一角に設けられるようになった。この後、陳氏が寄贈書の目録を、中尾善宣ハワイ伝道庁天理文庫担当主事に贈呈した。

「陳舜臣文庫」として天理文庫に収められ、誰もが自由に活用できるようにしたいと陳氏は述べた。多くの読者から親しまれている天理文庫に収められたということも極めて好都合。地域社会に大きくアピールできることでもあり、また文庫の内容充実にもつながる快事で、地域社会の文化の振興に大いに寄与するもの」と絶賛した。

中尾主事は、お礼のあいさつで「陳先生には、日本と古典を共有する五千年の歴史をもつ中国を、日本語を通じて理解することも国際理解の道であり、文化交流に役立てたいの思いから、著作を寄贈したい。また、きょうは贈呈式にも出席いただき、その真実に目頭が熱くなるのを覚える。貴重なこの文庫を大切に保存し、地域社会の人たちに読書を通じて国際理解を深めていただけるよう努力したい」と述べた。



贈呈式の会場となった読書室には、日本人会関係者、マスコミなど100人余りが来場。喜びに包まれた（同上）

この中で陳氏は、「これから世界は、だんだんとポータレス（境界のない）世界になる。そこに一番近づいているのがハワイだと思う」と、ポータレス社会をテーマに、ローマ帝国、チンギスハーンの世界、現在のアメリカを例にとりながら熱弁。チンギスハーン

の帝国の話では、「遊牧民は、自らの内部が大きく破壊されたが、近々の天理教の教会から復旧の手伝いに来てくださり、大変たすかりました」とコメント。

「天理参考館を見学したこともある。中国の資料に、今の中国では見られない貴重な収蔵品もあって興味をひかれた」とも話した。

この日は、古くからの宝塚ファンである陳夫妻に同行して、宝塚歌劇団の麻路さき、千秋嶺さんらも同席。また、ハワイ州経済観光局の納谷誠二局長、日本人連合協会の遠藤吉実副会長、ロイヤル・ハワイアン・アートの沖葉子会長ら関係者のほか、日系新聞社、テレビ各社も来場。天理文庫は終日、人また人できわった。

また「中国の国父といわれる孫文は、ハワイに留学してデモクラシーなど思想上の影響を受けた。近くNHKで映像化する予定もあり、これからはハワイについて勉強していきたいと思」と締めくくった。

贈呈式後の懇談会の席で

「日本語はある程度国際化し、海外に出た日本人だけでなく、日本の文化を知りたいという外国人にも学ばれるようになった。日本の文化をただでなく、日本人が活躍する経済、技術方面にも関心が向けられるようになった。同時に、日本とある程度古典を共有する中国について、日本語の文庫は極めて多く、私の著作なども何かの役に立てればよい」と願っている。

ハワイは、中国人が国父と尊敬する孫文が少年

「日本語はある程度国際化し、海外に出た日本人だけでなく、日本の文化を知りたいという外国人にも学ばれるようになった。日本の文化をただでなく、日本人が活躍する経済、技術方面にも関心が向けられるようになった。同時に、日本とある程度古典を共有する中国について、日本語の文庫は極めて多く、私の著作なども何かの役に立てればよい」と願っている。

ハワイは、中国人が国父と尊敬する孫文が少年

なお、今回寄贈された百十冊の単行本は、そのほとんどが初版本。今後も、新しい

時代を過ごした土地でもある。日本語を通じて中国を理解することも一つの国際理解の道といえるのではなからうか。

一人でも多くの国際人が、このハワイから育ってほしい。過去に多くの国際的トラブルが相互理解の欠如から起こっている。もし私の作品が少しでも友好をはぐむ種になれば、どんなにうれいことだろう。ささやかな夢がかなえられることを祈っている」

陳氏メッセージ——天理文庫に寄せて

設に図書館を開設。今回、ハワイ天理文庫の開設となった。図書館としての基本図書は、日本図書に充実に、ハワイに関する歴史書、太平洋地域に関する書物、文献、日本移民資料を収集していきたい」とあいつつしている。

その後、海外布教伝道部から毎年書籍が届けられ、現在の蔵書数は三万冊余。常時約四百冊が貸し出されている。ホノルル市の中心部に位置するとうり、地理的好条件とあいつつ、地域社会の文化交流の場としても活用され、利用者は年々増加している。

ハワイ天理文庫

ハワイ伝道庁の設立は、一九五四（昭和29）年で、日本文化研究所を併設し、庁内の一室に図書室が設けられた。その後、七一（昭和46）年にホノルル市又アヌアベニューに3エーカー（四千坪）の土地を購入して、天理文化センターが設置された。

文庫の開設は、八〇（昭和55）年三月十五日。吉田進庁長（当時）が図書館の計画し、海外布教伝道部、天理大学附属天理図書館の協力を得て準備。文庫（注：アメリカ伝道庁管下）の既設住宅を改装し、蔵書二万冊をもつ

設に図書館を開設。今回、ハワイ天理文庫の開設となった。図書館としての基本図書は、日本図書に充実に、ハワイに関する歴史書、太平洋地域に関する書物、文献、日本移民資料を収集していきたい」とあいつつしている。

その後、海外布教伝道部から毎年書籍が届けられ、現在の蔵書数は三万冊余。常時約四百冊が貸し出されている。ホノルル市の中心部に位置するとうり、地理的好条件とあいつつ、地域社会の文化交流の場としても活用され、利用者は年々増加している。

海外コース

「ハワイ天理文庫」に 近著など追加寄贈 直木賞作家の陳舜臣氏

〔ハワイ伝道庁発〕ハワイ伝道庁(吉川壽治庁長)附属天理文化センター内の「ハワイ天理文庫」に自著百十冊を寄贈した直木賞作家の陳舜臣氏が十二日、二年ぶりに同センターを訪れ、新たに著書など四十五冊を寄贈した。

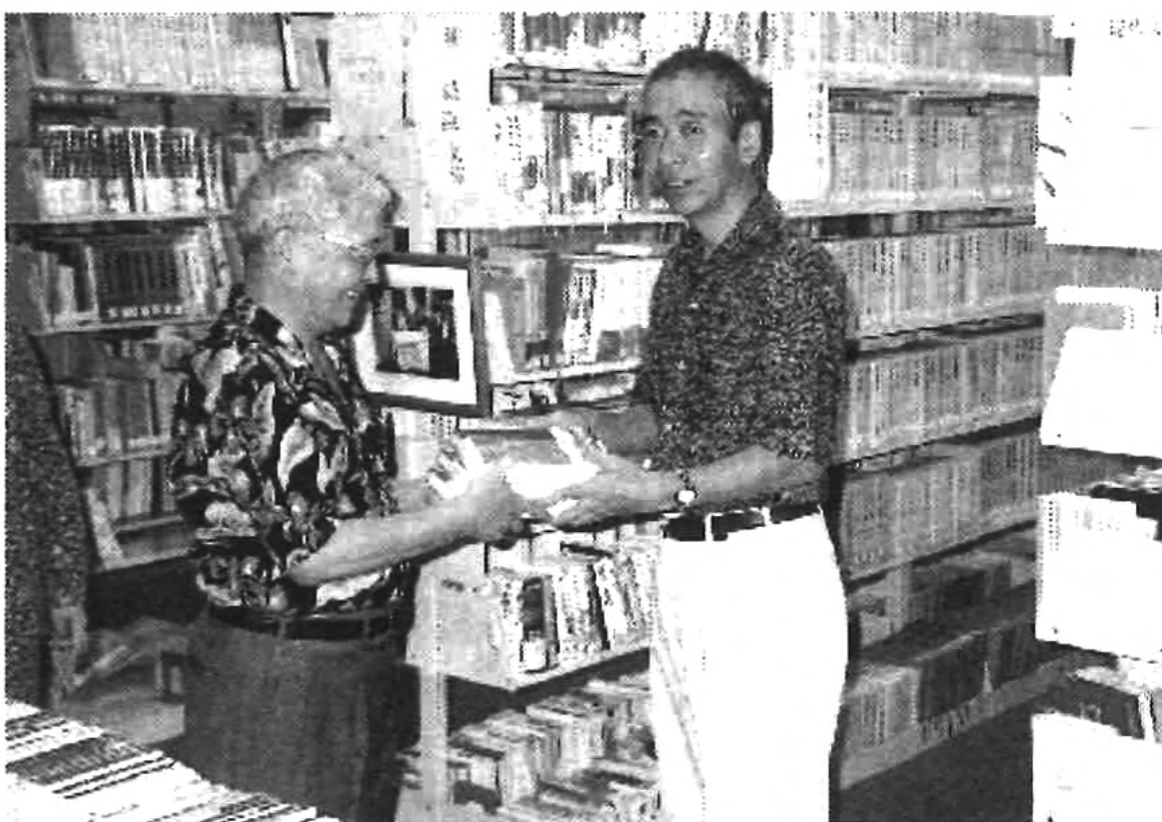
この日、陳夫妻と子息の立人さん、宮田達夫元毎日放送事業局長が同センターを訪問。「天理文庫」の一角に設けられた「陳舜臣文庫」の書架の前で、陳氏は吉川庁長へ「陳舜臣中国ライブラリー」の一卷から三巻を手渡した。

このほか『故宮』『秦の始皇帝』など、この二年間に刊行された著作十六冊のほか、氏の蔵書から中国文庫に関する書籍二十六冊も寄贈された。

文庫内を見学した陳氏は「二年前より充実している」と印象を語り、「楽園」と呼ばれるハワイに、これほど静かな環境があることが素晴らしい。また、海外でこれだけの日本語の蔵書を備え、かつ広く貸し出しを行っている所はほかにないだろう」と天理文庫をあらためて高く評価。「私の著作を蔵書に加えてもらうこととで、ハワイの人々にも日本語を通して中国文化に親しんでもらえればうれしい。今後も、ぜひ寄贈を続けていきたい」と述べた。

この後、陳氏らは天理文庫の読書室で約一時間にわたって吉川庁長らと歓談。ハワイや世界の情勢をはじめ、陳氏が天理図書館と参考館を訪れた時の思い出などを語り合った。

また、同行した宮田氏からも昨年以降、宝塚歌劇に関する単行本、ビデオ、雑誌など八十点が寄贈されており、天理文庫内に「タカラヅカ・レビュー・ライブラリー」を設置。この日、二十点の資料などが加えられた。



陳氏(左)は2年ぶりに天理文庫を訪れ、著作など45冊を吉川庁長に寄託した(12日)

天理文庫では「陳舜臣文庫」の設置以来、蔵書、利用者が増加しており、現在の蔵書数は約四万冊、常時貸し出しは約千冊に上る。吉川庁長は「再び陳氏ご本人から直接の寄贈を受け、大変感激している。これからも陳氏をはじめ利用してくださる大勢の日系人の方々の期待に沿えるよう努力し、またハワイにおける天理文庫の存在価値を高めていきたい」と話している。

ハワイ天理文庫を訪れた陳氏 (右) は、吉川庁長に近著など 25 冊を追加寄贈した (2 月 16 日)

海外ニュース

歴史小説家・陳舜臣氏 「ハワイ天理文庫」に自著贈る

〔ハワイ伝道庁発〕歴史小説などを中心に幅広い分野で執筆活動を行う陳舜臣氏がこのほど、ハワイ伝道庁 (吉川壽治庁長) 附属天理文化センター内の「ハワイ天理文庫」を訪れ、自著など計二十五冊を寄贈した。

ちん しゅん しん

四十二冊が追加された。

陳氏は数年前に脳卒中を患ったが、その後は病状も快方へ。今年二月十八日には喜寿 (七十七歳) の誕生日を迎えた。今回、ハワイ天理文庫に足を運んだのは、その直前の十六日で、自著が並ぶ書庫を見て感慨深い面持ちだった。

吉川庁長は「自著を携えて三度、この文庫を訪れてくださった真実に厚くお礼申し上げたい」と謝意を述べ、「陳氏の著作作品を数多く所蔵していることは、天理文庫の誇りであり財産。今後とも内容の充実と、地域社会への文化的貢献に努めていきたい」と話した。

陳氏による同文庫への寄贈は、三回目。初めて訪れたのは三年前で、「日本とある程度文化を共有する中国の古典を、日本語でハワイの人たちに紹介したい」と、自著百十冊を陳氏自ら手渡した。

当初、寄贈先の候補はほかにもあったが、蔵書四万冊を擁し、一般にも広く公開されている天理文庫が最適と、最終的に選んだという。これを機に、天理文庫内に「陳舜臣文庫」が設けられ、昨年一月にはさらに

◇

天理文庫の開設は昭和五十五年。現在、蔵書数は約四万冊。一日三、四十人の利用者があり、常時約千冊

が貸し出されている。また、ビデオライブラリーは約千八百本、太平洋地域の文献約四百冊、各種雑誌も百冊余りそろえている。

3 度目の訪問で計 180 冊に

陳舜臣文庫



全 6 人 一 人